

2024 年度 秋学期、第 3・第 4 クォーターの授業評価を終えて

人間学部長 新保 祐光

2024 年度の年度末に実施いたしました、秋学期、第 3・第 4 クォーターの授業評価アンケートの集計結果がまとまりました。学生の皆さん、先生方、また収集や分析にご協力いただいた教職員やご担当の関係者各位に、心から感謝申し上げます。

はじめに、このアンケートは何のために行うのかについて確認をするところから始めたいと思います。この授業評価アンケートは、大正大学における教育をよくすることを目的とします。教員は担当した科目で、可能な限り「よい」授業をしようと努力します。そのうえで、教員が考えた「よい」が、学生の立場からも「よい」といえるかどうかを確認できる貴重な機会がこの授業評価アンケートです。また学生が評価し、その評価を教員が取り入れるということは、本学が目指す主体的な学修の具体的な取り組みの一つにもなります。

そして授業の「よい」を測るにあたり、Q1 から Q6 で「教員による授業の取り組み」について、Q7 から Q14 で「学生の授業に対する取り組み」について、そして最後に自由記述で回答してもらうことで、多様な視点から評価をお願いしています。

そのうえで今回報告書の分析を見ていただくと分かりますが、ほとんどの質問項目で「そう思う」と「どちらかと言えばそう思う」をあわせた肯定的な回答が 90%を超えました。先生方の「よい」授業へ向けての努力と、学生の学ぼう、成長しようという態度が、授業を通じて良循環した結果だと思います。授業評価アンケートの分析を講評する立場として、授業に関わるすべての努力に感謝したいと思います。

ただし「よい」教育のためには、すべての項目ですべての学生が一番肯定的である「そう思う」という評価を目指していかなければなりません。そのための課題として 2 点お願いしたいと思います。

一つは肯定的な意見であっても、少し物足りない「どちらかと言えばそう思う」に関して、どうすればもっとよくなるのかを自由記述欄等に書いていただけるとありがたいです。肯定的な評価が多いこともあり、自由記述欄は改善を求める意見は余り多くありませんでした。ただしよいものをよりよくするにはという視点から、意見をより積極的に自由記述欄に書いていただけるとありがたいです。

もう一つはここに出てこない意見をもっと聞きたいということです。一部の学生だけでなく、すべての学生にとって「よい」ことを目指す必要があります。そのため可能な限り回答率をあげていく必要があります。今年度も回答率は半分に満たない状況でした。これを可能な限り全員の回答に近づけることが求められます。

全員が満足する授業を目指して、また主体的な学修を可能にする取り組みの一つとして、すべての関係者に今後とも本アンケート、およびそのフィードバックにご協力をお願いいたします。